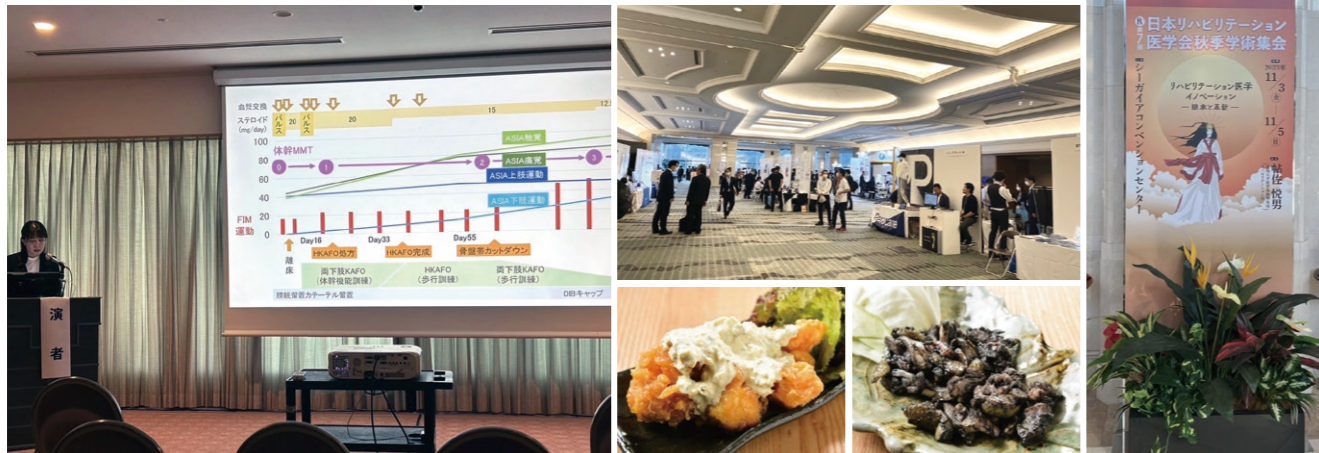


日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会 // in 宮崎



鶏肉が美味しい宮崎県 — 現地グルメも学会参加の醍醐味!

2023年11月3日～5日に宮崎市で行われました第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会に参加して参りました。今回僕は発表はなかったため、興味のある講演を見て回ったり、企業展示ブースにお邪魔したりしていました。7月の福岡の学会に参加した頃にはまだ難しかった内容もだんだん分かりつつあり、日々の学びが無駄ではなかったのだと実感しました。夜には道免教授に大変美味しい和食のお店に連れて行っていただいたり、また僕自身が宮崎大出身ということもあり、学生時代に見つけたチキン南蛮と地鶏炭火焼きが宮崎で一番美味しい居酒屋に学会参加していた皆様をお連れするなどしていました。宮崎県は鶏肉が異次元に美味しいのが長所なのですが、お連れした居酒屋は幸い参加者の方々の口に合っていたようで、喜んでいただけ良かったです。今回の学会は宮崎大学の整形外科が主催となっており、学会会場では整形外科教授の帖佐先生を始め、懐

かしい顔ぶれを見かけました。私が宮崎大学に在籍していた頃はまだリハビリテーション科は整形外科の中に入っており、ポリクリ実習でも「リハビリ科に進むなら、まず整形外科に進んでからにするように」と整形外科の先生から口酸っぱく言われ、「分かりました!」と返事をした気もしますが、加齢のせいか最近では僕も忘れっぽいので、まあたぶん気のせいでしょう。そんな宮崎大でも最近ではリハビリテーション科が診療科として独立し、僕の大学同期も来年から入局するようです。また現地でも大学の同級生や後輩たちも人生のコマを順調に進めており、時の流れを感じました。前回、今回の学会では見学だけでしたが、来年の渋谷開催の学会では僕も発表する予定です。若輩者でまだまだ至らぬ点ばかりですが、ご指導・ご鞭撻いただけると幸いです。

兵庫医科大学病院 上地 浩史 先生

学会発表での気づき — 参加・発表は知識を吸収する良い機会に

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が2023年11月3日から5日に宮崎県シーガイアコンベンションセンターで行われました。現地は天候にも恵まれ海を望むことのできるとても気持ちの良い会場でありました。私は2日目より演者として現地参加し、視神経脊髄炎による不全麻痺に対してHKAF0を用いた器具療法が著効した症例を発表いたしました。今回の学会は5月の総会、9月の近畿地方会に引き続き現地参加する学会として3度目でした。研修医時代に学会発表経験がなく、地方会に続き2度目の発表でしたが大変緊張しました。スライド作成時には改めて所見や検査結果の整理をすると知識不足や知識整理の不十分である部分が明らかになり焦る気持ちもありましたが、指導医の先生方にご指導いただき、また発表時は見守っていただきながらなんとか無事終えることができました。発表後は反省点や課題も多々見つかり今後活かしてまいります。貴重な経験

ができ大変感謝しております。また、今回の学会は総会に引き続きオンデマンド配信もあり、現地では出席することのできなかったセッションや再度勉強したいセッションは後日視聴することができました。日頃はまだまだ慣れないことも多く日常業務に精一杯で多方面の分野に目を向けて学習する余裕はありませんが、学会は教育講演や貴重な症例報告、最先端の研究、最新の治療機器など様々な刺激を受けることができる良い機会です。そして今回の学会を通じて、学会発表した症例に関する知識はより印象的に頭に残るように感じました。まだまだ未熟者ではございますが、今後も積極的に参加・発表しそして得た知識を臨床に活かすことができるよう精進してまいります。

兵庫医科大学病院ささやま医療センター 喜多尾 衣莉 先生

特定非営利活動法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

CRASEED NEWS

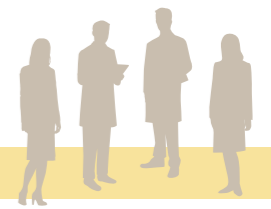


No.55

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第55号(2024年2月15日発行)

〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 <http://craseed.org>

リハビリテーション科 専門医試験 合格者の声



CRASEEDではこれまでに多くのリハビリテーション科専門医を輩出しており、2023年度は新たに8名の専門医が誕生しました。リハビリテーション科医師としてプロフェッショナルを目指す者であれば、専門医試験は誰もが通る道。そこで、合格者の皆様に専門医試験への心構えや所感をお伺いしました。

筆記試験対策は過去問と公式問題集を繰り返し解きました。転勤もありますので症例集めは早めに取り掛かることをお勧めします。試験本番では既出問題がいくつか出題されるため、難しい問題に惑わされず、確実に淡々と解いていくうちに不安や緊張が緩和して弾みがつくと思います。口頭試問は、直前に指導医の先生方に模擬試験をしていただき、一連の流れを想定して挑みました。しかし運転再開や復職等の実践的な質問では返答に悩む場面もあり、リハビリテーション科医師としての普段の姿勢や臨床経験について深く問われているように感じました。道免先生を始め、先生方より日々ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。今後は、専門分野を深く掘り下げながら、さらなるステップアップの為に研鑽してまいります。

兵庫医科大学病院 市川 昌志 先生

私はもともと内科医ですので専門医試験の類は今回が4回目です。7-8年ぶりの受験でしたが、年齢とともに記憶の定着が悪くなっていることを実感いたしました。それでも日々の臨床の中でご指導いただいた内容や、セミナーやBYOC等の機会でも勉強したことは十分に身に付いており、また口頭試問やレポートのご指導を直前にいただいたことで、自信をもって試験に臨むことができました。試験の帰りに新幹線で上司の先生方とビールを飲みながら楽しい時間を過ごさせていただいたのもよい思い出になりました。

最後になりましたが、道免先生をはじめCRASEEDの先生方にきめ細やかなご指導をいただきましたことをこの場をおかりして感謝申し上げます。

兵庫医科大学病院 竹田 倫世 先生

症例集めは、各分野で必要な症例が何例であるかを早期に把握しておくことが重要です。特に小児疾患や切断症例は数が少ないため、大学にいるときに経験しておくことによいです。作成したレポートは全て指導医の先生方に添削していただきました。始めは大変ですが、慣れてくるとポイントが分かり書きやすくなると思います。筆記試験対策は、Q&Aを完璧にすることが重要です。その後過去問5年分を解き、繰り返し出題される問題の傾向を把握するとよいでしょう。口頭試問に関してはあらかじめ出題範囲が指定されるので、その分野の知識をコアテキストで確認するとよいです。自分は神経疾患でポストポリオ症候群を出題されたのですが、実際に症例を経験したことがなく非常に焦りました。道免先生を始め、指導をしてくださった先生方には大変感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

洛西シミス病院 斎藤 卓仁 先生

症例集めはどの症例が必要か確認して日々の診療の中でリストにしておくことがスムーズに進めるコツだと思います。また勤務する病院が途中で変わることもあるので、その病院にいる間にレポートを作成することをお勧めします。試験ですが、過去問は5年分解きました。範囲も膨大なので過去問の内容を派生させて勉強しました。口頭試問は事前に分野が分かるので疾患毎に内容をまとめて準備し上級医に面接の練習をしていただきました。本番は戸惑う質問もありましたが、普段自分がどうしているか考えながら答えました。生活背景から退院後の生活まで普段どりだけ自分で考えているかが大事だと思いました。日頃の診療にも役立ちますし、やりがいを感じられる機会も増えたので勉強する機会をいただけて有難かったです。今後のリハビリ分野のさらなる発展に貢献できるよう精進いたします。

兵庫医科大学病院ささやま医療センター 松島 聡子 先生



専門医試験においては症例レポート作成が最も重要です。締め切り直前の3月末までレポート作成をしていた事が反省点です。早い段階から必要な症例を把握した上で診療を行い、3年目までに症例集めを終える事を目指しました。できれば担当している間からレポートを作成していき、残りの時間を逆算して計画的に進めて、早めに指導医チェックをしていただくのが良いと思います。試験対策は4月からテキストや過去問で知識を整理していきました。口頭試問は指導医の先生方に模擬問題を出していただいて対策しました。今後もさらに学習を継続して、信頼される医師を目指して精進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

関西リハビリテーション病院 金谷 実華 先生

専門医試験の準備を進めていく中で、注目すべきポイントや知識を改めて整理することができました。過去問では、不正解の選択肢についてもなぜ不正解なのかを調べ、改変問題に対応できるようにしました。口頭試問は緊張しましたが、設問の患者さんが実際にいっしょるように思うことで日常診療に近い状態で臨むことができました。症例レポートに関する質問は、試験官の先生方が「なぜこのようにしたのだろう」「ここはどうだったのだろう」といった純粋な疑問を訊かれていた感じでした。ですので、思い入れのある患者さんの方がより答えやすいと思います。

専門医を取得させていただき、ようやくスタートラインに立てたと感じております。少しでもより良いリハビリテーション医療を提供できるように今後も精進して参ります。

西宮協立リハビリテーション病院 兵谷 真司 先生

内科のダブルボードによる研修カリキュラム制で研修を行いました。受験案内に指示された疾患を経験・診療し、症例報告(30例)と経験症例リスト(100例)を作成することが最も重要な課題になります。研修の初期段階から経験すべき疾患を把握し、アンテナを張る必要があります。筆記試験に関しては、過去5年分の問題を解き、傾向を把握しました。また、学会出版のテキストや運動学などの専門書を参考にして学習を進めました。口頭試問においては、予め発表される標準問題の2つの分野と症例報告に対する質問が行われます。標準問題に関しては、問診から社会復帰に至るまでの実臨床の流れに沿った質問がなされます。CRASEEDのSEMINARや医局の症例検討会への参加、学会ホームページのe-learningの動画を視聴することは非常に有益でした。今後も学び続け、良質な医療を提供したいと考えています。

関西リハビリテーション病院 林 隆太郎 先生

症例レポートは早めに作成を始めることをお勧めします。ただ、レポートの内容は口頭試問で聞かれるため、印象に残りかつ典型的な症例を選んで書くことが良いかと思います。筆記試験対策には過去問を数年分解くと出題傾向を把握することができます。実際の試験でも過去問から6-7割くらい出題されました。口頭試問対策には指導医の先生に模擬面接を行っていただきました。実際の口頭試問では出題内容が難しかったですが、指導医の先生から「困っても何かしら話し続けることが大事」というアドバイスを受け、無事乗り越えることができました。今後も「生活を診る医師」としてリハビリテーション医療に貢献できるように日々精進して参りたいと思います。

西宮協立脳神経外科病院 望月 碧 先生

病院紹介

兵庫医科大学病院 ささやま医療センター

兵庫医科大学ささやま医療センターは1997年に前身である国立篠山病院より兵庫医科大学が経営移譲を受け、兵庫医科大学篠山病院として開設されました。病床数は180床(一般病棟92床、地域包括ケア病棟44床、回復期リハビリテーション病棟44床)で、総合診療科、整形外科、リハビリテーション科を中心として丹波篠山市で地域医療を担っております。当院では2015年より回復期リハビリテーション病棟を開設し、365日体制でのリハビリテーションを行っています。リハビリテーション科は指導医1名、専門医2名、レジデント2名の5名体制で、回復期リハビリテーション病棟での主治医だけでなく、他科の患者さんにもリハビリテーション担当医としても関わり、入院中の治療から退院後の生活まで幅広いサポートを行っています。また、外来診療や訪問診療では、退院後の外来リハビリテーション治療やボツリヌス治療、装具診、介護サービス調整なども行っています。さらに、退院後の機能低下を予防・改善する目的で地域包括ケア病棟を利用したりリハビリテーション入院も患者さんの希望や必要性に合わせて実施しています。当院には併設の老人保健施設もあり、こ



ちらでは通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、ショートステイなどのサービスを提供しており、介護保険でのリハビリテーションにも力をいれています。このように、急性期・回復期・生活期と切れ目のないリハビリテーション治療を提供することも当院の特色の一つです。また、ロボット機器のWelwalkやReogo-JやVR機器であるVi-derelによる先進的なリハビリテーション治療や、ドライビングシミュレータなどを用いた自動車運転再開支援なども実施しています。今後も継続して丹波篠山地域の医療・介護に貢献していきたいと考えております。

ささやま医療センター 金田 好弘 先生

CRASEED セミナー

道免和久教授が伝授する 脳卒中リハビリテーションの 達人になるために

収録会



脳卒中リハビリテーションについて基礎から応用まで体系的に学習

2023年10月9日、後日配信される「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」の収録会に参加させていただきました。道免先生という実際の「脳卒中リハビリテーションの達人」に対面で基礎から応用まで丁寧に講義していただく、大変貴重な機会でありました。

私は高知大学卒業後、市立加西病院という中規模市中病院で初期研修をしました。加西病院には脳神経内科・外科がなく、脳卒中を診る機会もほとんどありませんでした。2023年4月から兵庫医科大学リハビリテーション科へ入局し、ささやま医療センターへ配属されました。脳卒中後の患者を担当させていただくこともあり、症例毎に疑問点があれば調べたり、脳卒中リハビリテーションについての本を読んで勉強したりしましたが、体系的に学んだのは学生時代が最後でした。

そんななかで、「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」収録会に参加させていただきました。改めて体系的に勉強することができ(学生時代習っていないことばかりでした)、基礎は中学理科の復習から、応用はCI療法まで、様々なことをわかりやすく教えていただきました。中でも印象に残っているのは、予後予測についてです。入局時、道免先生の著書である「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」をいただきました。回復期で働いている間は脳卒中患者の担当になるたびにマニュアルを読みながら予後についてICしていました。あらためて道免先生に予後予測について講義していただき、予後予測の限界や家族要因の大切さなども教えていただきました。今後の診療に行かせる実践的な知識ばかりで、大変勉強になりました。

最後に、このような貴重な講義を受講させていただき、CRASEEDの皆様へ感謝申し上げます。

兵庫医科大学病院 西林 亨 先生

第13回

コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会

— コロナ禍を乗り越え、本来の“交流の場”の形へ

13th Social Meeting for Comprehensive Rehabilitation

併存症としての認知症について 多職種の視点から学ぶ

2023年7月29日にTKP ガーデンシティ京都タワーホテルにてコンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会が開催されました。午前中は各病院より一般演題としての症例発表が行われました。リハビリテーション科医として働き始めて約4か月となり少しずつ業務にも慣れてきておりましたが、ほかの施設での患者さんへのかかわり方や疾患に対するアプローチを知ることができ、今後の研鑽にも生かしていこうと強く感じました。午後には今回のシンポジウムのメインテーマである「併存症としての認知症」について熱い討論が交わされました。リハビリテーション科として臨床業務にあたっていると、認知症やその周辺症状がリハビリテーションの阻害因子になることは多々経験することで、各病院各職種の視点から認知症有病患者にどのように向き合っているのかを知ることができ、大変勉強になりました。医師としての視点だけではなく、多職種で向き合って解決できる問題も多々あると強く印象に残りました。



シンポジウムの終了後、同フロア特設会場で懇親会が行われました。関連病院の先生方、他職種の方々や食事と共にし、親交を深めることができました。懇親会中盤に行われたビンゴゲームは大盛り上がりで、豪華景品に当選した方々は大喜びでした。今回のシンポジウムでCRASEED内関連病院の連携の強さを再確認するとともに、目の前の疾患にともに向き合える仲間存在を強く感じました。専攻医として学ばせていただく中で今後各病院にお世話になる機会も増えると思いますが、どんな状況になっても優秀なチームに恵まれるだろうという心強さを感じます。自分自身としても負けないように研鑽を重ねていこうと思いますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

兵庫医科大学病院 山元 拓磨 先生